

宗学院公開講座

講師 小田淑子氏 (関西大学文学部教授)

イスラームの宗教性と現代

～ 講義概要 ～

イスラームは全員在家の宗教で、信仰と律法に従うことが唯一の救済の方法。救済権限をもつ聖職者は不要で教会制度もない。シャリーアは儀礼規範、家族法を中心とした法規範、その他道徳、食物規範などあらゆる領域の規範を含む。それが必要な根拠はイスラームの人間観にあり、一人の信仰者は礼拝や断食など儀礼を行うと同時に、社会生活をする（結婚して子供を育て経済活動を行う）。イスラームは信仰者の生き方のすべてが宗教の問題であるとするため、社会秩序を維持する法規範ももつ。

イスラームにとって近代化を受容する際、シャリーアをどうするかが大問題となった。シャリーアによる統治を原則としつつ、イスラーム世界は、近代以前も現代でも、かなり融通をつけてイスラーム社会を保っている。現代においてテロや IS など過激派が生じた理由は、半分はイスラームにあるが、半分は欧米主導で経済格差の残る国際情勢にある。

日時 2017(平成29)年 7月5日(水) 15時~16時半

会場 龍谷大学大宮学舎 本館講堂
京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1

聴講無料

小田淑子 (おだ よしこ)

1948年神戸市生まれ。大阪外国語大学ヘルシア語学科卒業。京都大学大学院文学研究科宗教学専攻退学。シカゴ大学大学院神学科宗教学専攻留学。東京大学文学部イスラーム学研究室助手、京都女子大学短期大学部助教授、関西大学文学部助教授を経て、現在同大学教授。2003年度在外研究で、主にトルコ共和国滞在。編著「岩波講座宗教」第二巻 宗教への視座」「第十巻 宗教のゆくえ」など多数の著作がある。

〈お問い合わせ〉

宗学院事務室 TEL 075-371-5181 (代) 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派勧学寮内